

(様式第4号)

丸子公民館運営審議会 会議概要

1 審議会名	丸子公民館運営審議会
2 日時	平成28年3月17日(月) 午後3時から4時まで
3 会場	無垢の家
4 出席者	宮田会長、篠原副会長、遠藤委員
5 市側出席者	石井公民館長、栗木主査
6 公開・非公開	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	平成28年3月22日

協議事項等

- 1 開 会 (栗木主査)
- 2 あいさつ (石井公民館長・宮田会長)
- 3 協議事項

(1) 平成27年度事業実施状況について(事務局より説明)

対象区分ごとに事業説明し、ひびきあい教室など青少年を対象とした各講座においての参加者数が少ない傾向について触れ、土曜学習の今後の充実にあたり青少年の現状について意見を求めた。

(会 長): 青少年の体験塾等を実施しているが、指導者の高齢化のため限界を感じる。小学生を対象にした場合、低学年は時間に余裕があるが、高学年は部活など忙しく、学校行事優先になるので中々参加が難しい現状。低学年は親と一緒に参加しなければならないので大変なのではないか。子供だけ参加できれば良いが、低学年の場合は保護者が必要な場合がある。

(事務局): 土曜学習が必要であるといわれていても分館での子供行事も地域の伝統行事や夏休み以外あまり聞えてこない。普段、子供はどこにいるのかとなると家でゲーム等になってしまっているのか。

(副会長): 子供の中には暇な子もいる。親としては子供が勝手に遊びに行き帰ってくるのがよいと思っているが、現実的にそのようなことはあまりない。子供を任せてしまうだけではいけないと思うし、ひびきあい教室なども、親がたまに一緒に参加したり見学できたりしたほうが良いと思うので、親も1回くらいは出たほうが良いし、親と子で参加する日程を始めから決めてしまったら参加できるのではないか。

(事務局): 体育館で行われているスケート教室は大人気で、親は送り迎えのみ、というのがある。指導者もいるので子供も親もお互いに良いケースの事業だと思っている。

(委 員): 私は車がないのでバスで移動するのが大変なため講座にも参加しにくいし、引っ越してきて間もないので、現状はあまり分からない。高齢者の講座は人気があり参加者が多いというお話ですが、高齢者が多いのはどこも一緒に、年代層を広げるとするのは難しい問題だと思う。

(2) 平成28年度年間計画について(事務局より説明)

対象区分ごとの説明に加え、新規事業として10周年記念事業の説明をした。

新年度の事業に向けて、課題解決について青少年事業をしている宮田会長に意見をうかがう。

(会 長): 昔と比べても、子供の質は変わっていないと思う。参加したい子は参加している。一回参加すれば、次の参加につながっていくので新規の参加者をいかに獲得するかだと思う。

(事務局): ひびきあい教室の通知などは、学校を通じて各家庭に配っているが、子どもが親に通知

を見せないという話をよく聞く。

(副会長): 保護者は参加させたいけれど連れて行かれない。近くに頼める人もいない。本当は近くで、自分で行って自分で帰ってこられるようなところがあればと思う。

(事務局): 公民館の分館などはその形に近いと思いますが、なかなか毎週開けるといったことも大変ですし、自由にさすにも安全管理の問題があり難しいところがあると思う。子ども会などのしっかりした運営体制があれば良いと思いますが、子ども会は地域により温度差もあるし子ども自体が少ない。

### (3) 平成 28 年度の主な予算 (石井所長より説明)

### (4) その他

(事務局より、「信州型コミュニティスクール(概要版)」について説明)

(事務局): 文部科学省がコミュニティスクールの設置をすすめ、長野県や上田市においても全校設置に向かって取り組んでいる。子供たちは家庭や地域や学校で育ていかなければならないが、今は学校だけにその責任が被さっており、様々な生徒がいる中で先生たちの手が回らなく、一人一人と向き合ったケアができない。また年齢が高くなるにつれて自己肯定感が低くなるという統計も出ており、そんな中で地域と学校が話し合っって情報を共有して学校のビジョンを共に作って協力しながら進めましょうと取り組んでおり、公民館事業とは直接関係はないが、公民館で学んだ知識などを地域の住民が学校の授業の中で協力し、様々な体験活動を一緒にしていくことにより自分の力を知ったり褒められたりしながら自己肯定感を上げていくことにつなげていけると思う。このような動きの中で公民館としても地域の方の協力を仰ぎ学校を支援していきたいということで取り組んでいます。

教育委員会では、H28~10年間の生涯学習基本構想を現在策定していますが、各機関や大学と連携をしながらいろいろな講座を実施してきたが学習者の高齢化や固定化の傾向と若年層のかかわりの少ない現状や市民の活動団体も同じ背景で人材不足となっているという共通の課題が出てきています。このような現状があるということも委員の皆さんにお伝えしておきます。

(副会長): 保育園、小学校と上がるにつれ、だんだん子供が何をやっているのか分からなくなる。中学生になったら本当に分からない。先生も忙しくしていて、いつでも来てくださいとは言っても、いつ相談したらいいかも分からない。親は今困っているのに、すぐ動いてもらえない。いろいろな対策を考えていただくことは良いことだと思いますが、実施までに時間がかかりすぎる。今そこにいる子供を支援することが大切だと思うので、すぐにでも実施してもらいたい気持ちでいる。

勉強を見てくれるような講座なんか人気があるのではないかな。